

冬号 みどり通信

発行 21世紀記念公園 麓山の杜

連絡先 〒963-8876 郡山市麓山 1-16-17

TEL 924-2194 FAX 924-2195

【みどりの教室】

日時：令和5年2月26日(日)10:00~12:00

場所：郡山カルチャーパーク 工作室

定員：20名(抽選)

内容：ミニ盆栽づくり

日時：令和5年4月9日(日)10:00~16:00

場所：とんがりふれあい館ホール

定員：各20名(抽選) 午前・午後開催

内容：ハナカツミ講習会 樹木観察会

* 受講料 ¥500

* 諸般の事情により定員変更あり

【みどり講習会】* 受講料無料、予約不要

場所：とんがりふれあい館ホール

対象：記念樹交付申請者及び希望者

日時：令和5年3月19日(日)10:00~12:00

内容：庭づくりのポイント

* 樹木医による園芸に関する講座です。

*** 市内に住宅を新築または購入された方へ苗木を1本プレゼントしています。**

申請期間は新築または購入日から1年以内です。

新しい年が始まりました。干支にちなんで飛躍できる一年になるといいですね。旧暦の元日は1月22日になります。その人によっては旧暦のほうが気温をはじめ動植物の動きに合致しているという方もおられます。寒さもこれからが本番ですが、その植物によっては既に芽を膨らませているものもあれば、まだ固く寒さをしのいでいるものもあります。寒い時季ですが周りの植物を観察すると新しい発見があるかもしれませんね。門松に使われる植物に松、竹、梅、南天、干両、葉牡丹、ユズリハなどの縁起植物があります。それぞれに意味があり今の時代でも飾られています。



My ガーデニング …… 季節のワンポイントアドバイス

【水やり】

今のところ降水量が少なく鉢植えや植え替えて間もないものは水を欲しがっています。この時季に枯らしてしまう原因は寒さと乾燥が多いです。地植えで十分に根が張っている場合にはよほどのことがない限り必要はないと考えられます。水やりの時間帯は暖かい日の午前中が適しています。なぜならあげた水が凍るのを防ぐためです。ランのような寒さを嫌がる植物の場合は少し温まった水をあげるようにしますと根を痛める事が防げます。

【植替え】

常緑広葉樹は寒さが厳しいので植替えには適しません。暖くなる3月末頃からは可能になります。

どうしても植え替えが必要な時は寒さと乾燥から守ってあげるためにべた掛けシートなどで枝葉を覆うようにします。常緑針葉樹は厳寒期を除けば可能になります。ただし適期は早春です。落葉広葉樹は春の芽が動き出す前までが適期になります。太い樹木でも枯れるリスクは低くなります。ただし土壌改良を行い健全に育つような土壌にして水やりの管理をしっかりと行います。春先の乾燥で枯れることが多々あります。前のみどり通信に引き続き植物を春に植えようと思っている場所は冬の間に掘り起こして寒さにあて風化させ土を軟らかくしておくといいですね。(天地返しといいます) 植物は土づくりが一番大切になります。粘土のきつい所では特に効果が高いです。

【肥料】

これからの緩効性有機質肥料の施肥は植物にとっても大事になります。寒肥といえます。骨粉入りの油粕などが特に向いています。春からの育ちに格段の差が出てきます。自宅の樹木の育ちが悪い場合は特におこなってみてください。油粕は肥料成分が低く多めにあげたとしても肥料焼けの障害は出にくいです。あげ方としては根元から離れた場所をツボ穴状に掘りそこに肥料を埋めていきます。それが大変な時はばらまきしても効果はあります。ただし流れ出てしまうリスクはあります。



この油粕はチツが 5%、リン酸が 5%、カリが 2%づつ全体の重さに対して含まれています。一般的な化成肥料に比べるとその量は少なくゆっくり長く肥効が続きます。

【病害虫】

病気は予防、害虫は早期の退治が基本です。落ち葉は病害虫の越冬場所となりやすいので掃き集めて処分します。この時季は越冬する卵塊や幼虫は見つけ次第取り除きます。冬季に使用できる石灰硫黄合剤（殺虫殺菌剤）やマシン油乳剤（殺虫剤）は退治しにくいカイガラムシやアブラムシに効果があります。ただし薬害で常緑広葉樹では春先に落葉することもあります。写真はサザンカについたカイガラムシの一種。



【剪定】

上記の写真は冬季に混みすぎた枝葉を透かし剪定を行ったアカマツです。この春に伸びだす芽は傷つけることなく残しておきます。マツ類はこの時季はこの様な剪定を行うと観賞価値が上がり雪による枝折れも防げます。常緑広葉樹は3月下旬以降に剪定を行います。落葉樹は一部を除いて芽が動き出すまで行えます。ただし切りすぎると樹勢は弱ってしまいます。

【この時期のハナカツミ】



これがハナカツミの現在の状態です。葉は茶色に枯れてはいますがその下には春から伸びだす新芽がみられます。地植えの場合にはこの古葉が寒さから新芽を守ってあげています。根が浮き上がっているときには増し土をします。鉢植えの場合には古葉をきれいに切り取って構いませんが乾燥や寒害で枯れてしまうことがあります。軒下に取り込んで水やりを行い乾燥を防ぐようにします。鉢植えの場合は3月上旬に植え替えをしてあげます。どちらの場合も3月に緩効性肥料をあげます。